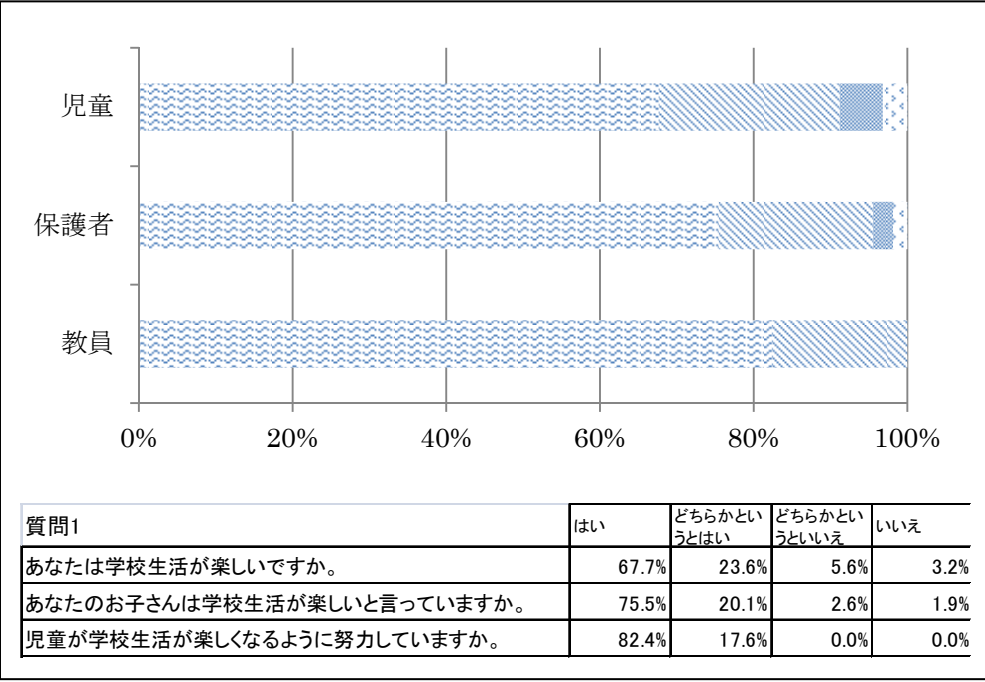
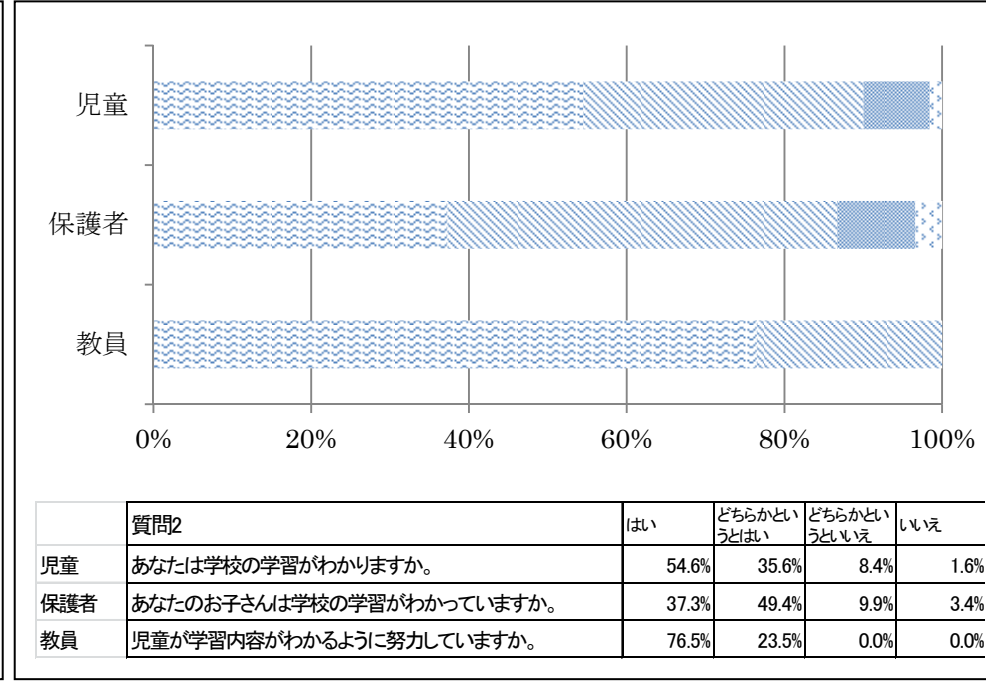


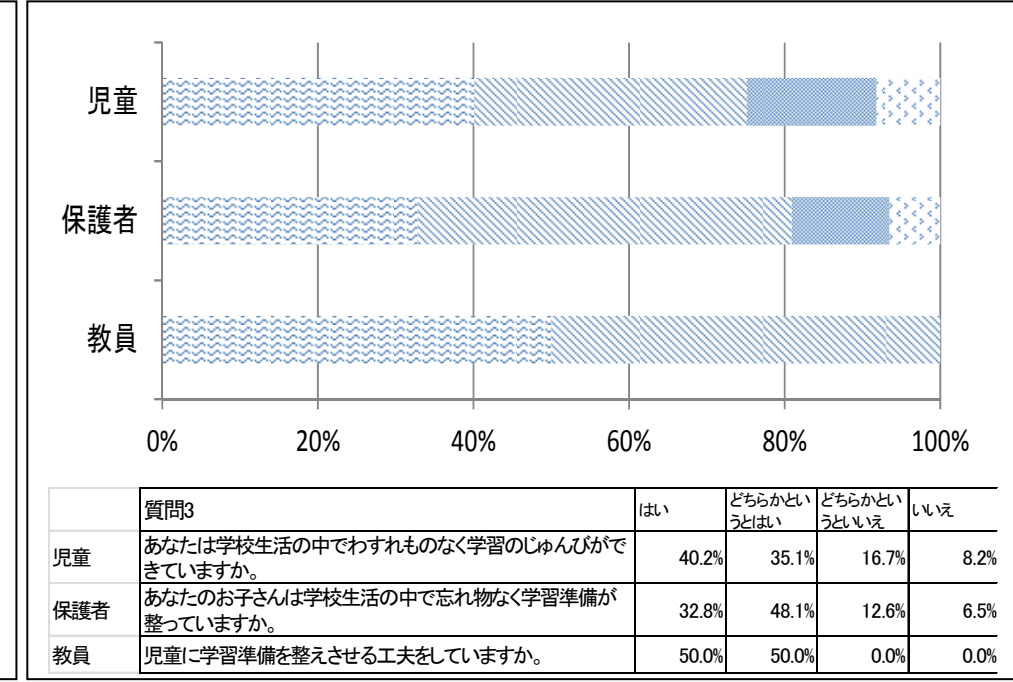
平成 27 年度前期学校評価結果一覧



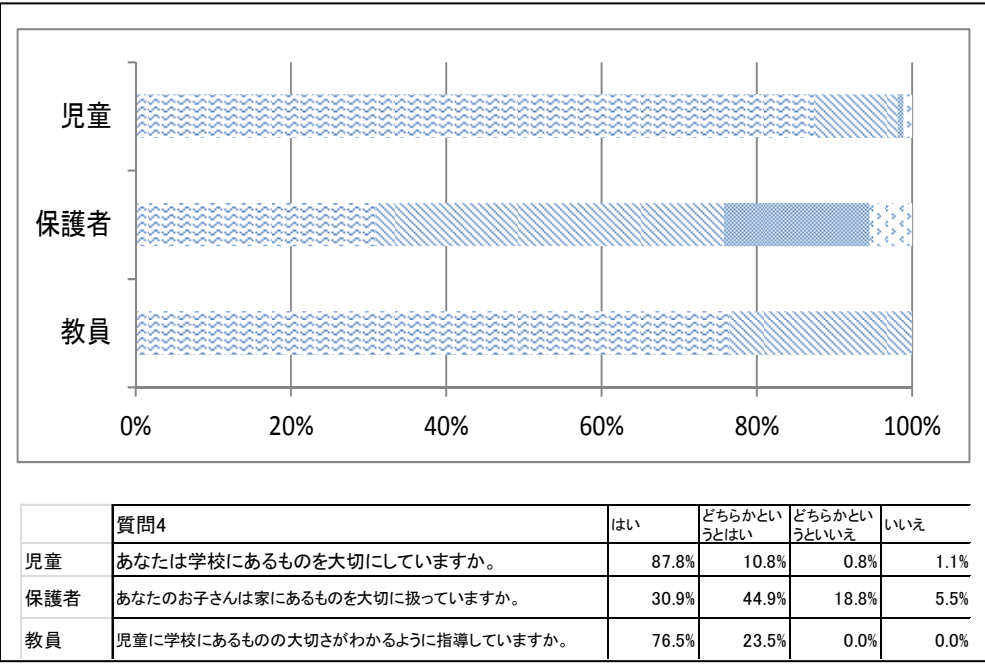
過去 3 年間をみると、ほぼ同じ回答である。わずかな幅で回答に変化が見られるが、概ね児童・保護者ともに学校生活が楽しいと回答している。しかし、保護者と児童の回答に開きがある点に着目すると、児童が本音を話していないということが考えられる。質問 9 では、家族との会話について質問しているが、「いいえ」と答えている児童が 6.7%いることからこのような結果になる原因の一つが伺える。



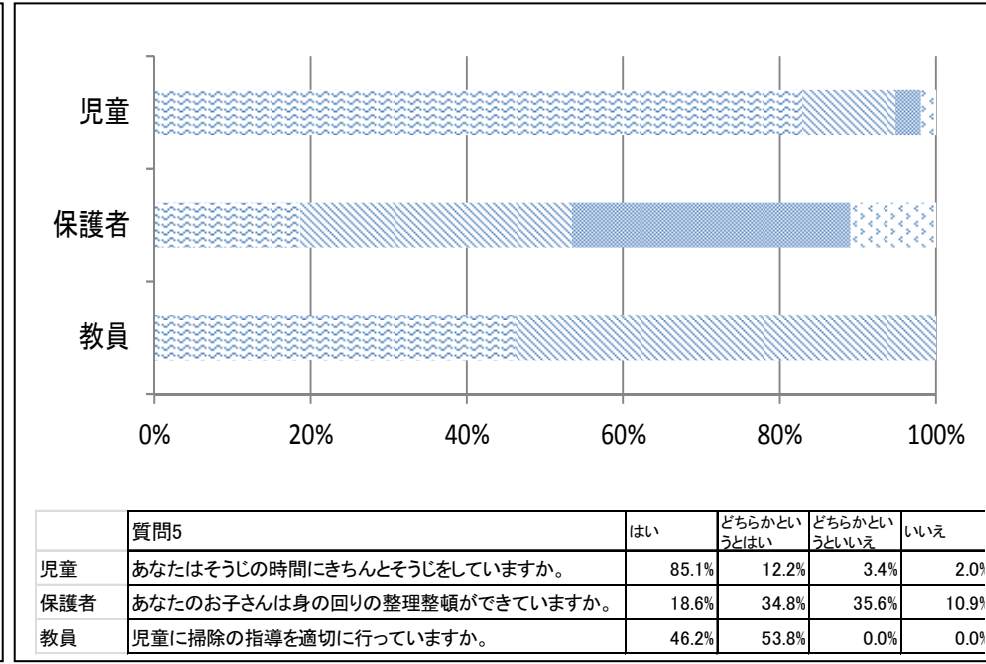
学習内容の理解については、概ねできていると見ることができる。しかし、「どちらかというといえ」、「いいえ」を合わせて、10%の児童がいた。教員は子どもの学習理解を促し、深めるための努力をしているにもかかわらず、クラスに平均 3 人の割合で「わからない」と答えている児童がいることについて、個に応じた対応をさらに工夫する必要がある。また、その内容については保護者と十分連携を図って行うことが重要である。



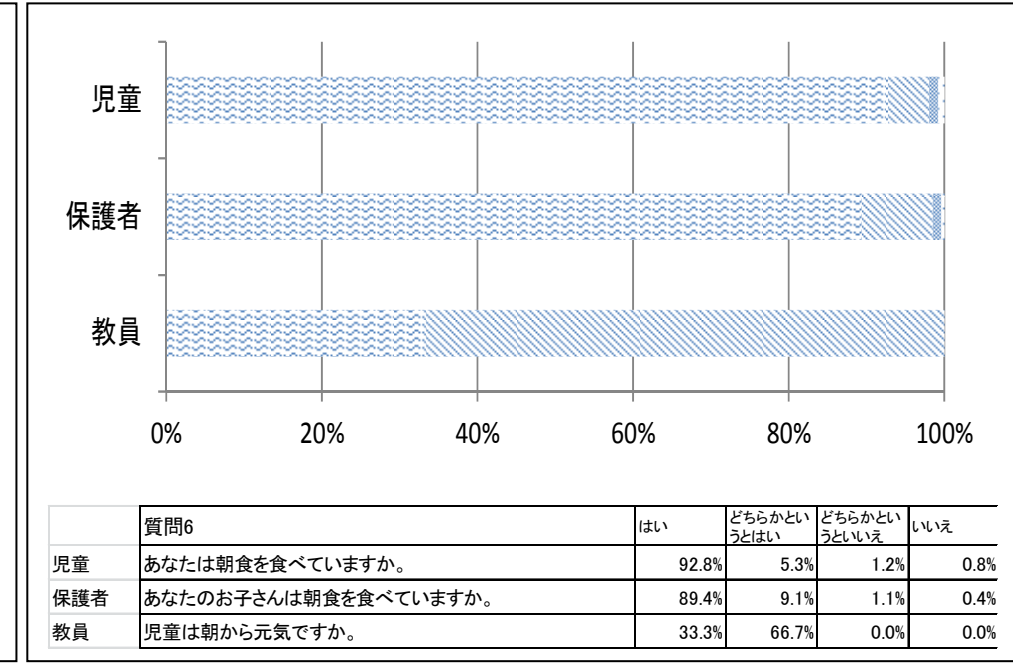
学習準備は学校生活の中で最も大切なことだと言っても過言ではない。そして、学年が上がるにつれて自分のことは自分でできるようにならなければならない。「できている」と答えている割合が 3 者とも 50%以下であるが、この割合は昨年同期比 4 ポイント～23 ポイント改善されており、特に低学年で保護者の協力が大きく影響していると考えられる。一方で、教員が準備の工夫を十分していないととれる結果であることについて、日頃の取組を見直すべきであろう。



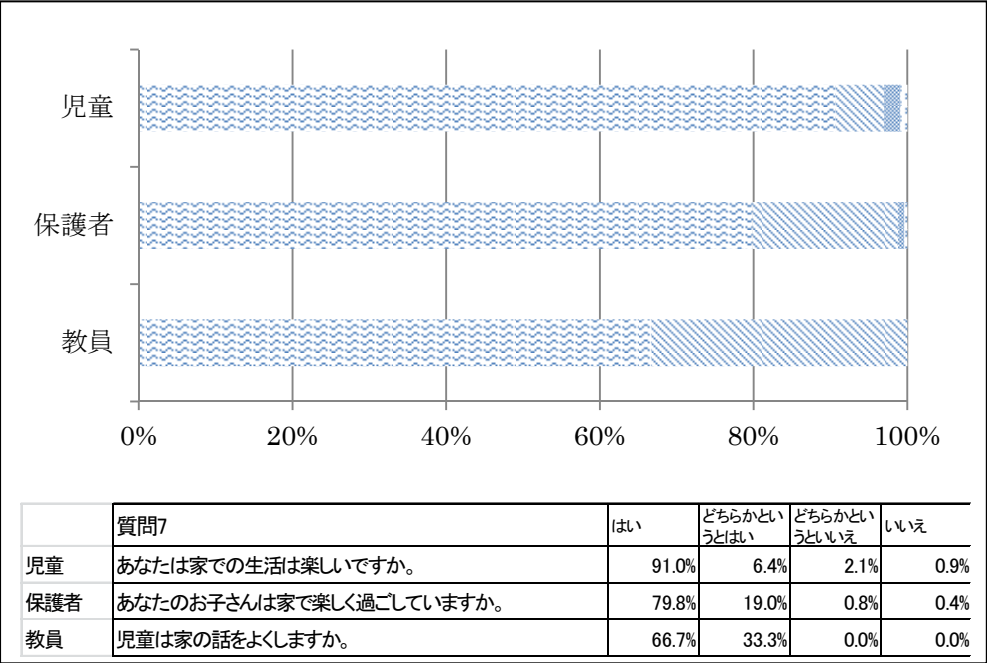
一部昨年と変化した部分だが、「家にあるものを大切に扱っていますか」という保護者への質問である。昨年までは「学校のものを大切に扱っていると思いますか」であった。質問内容が学校のもの（主に共有物）と家のもの（主に私物）と大きく変更になったことで、回答にも変化が見られた。「どちらかというといえ」も含めて、いいえの回答が 24.3%にも上った。どんなものであっても、粗末に扱っていいということではなく、普段の生活でのものを扱う時の姿勢が学校生活にも表れてしまうことを忘れてはいけない。



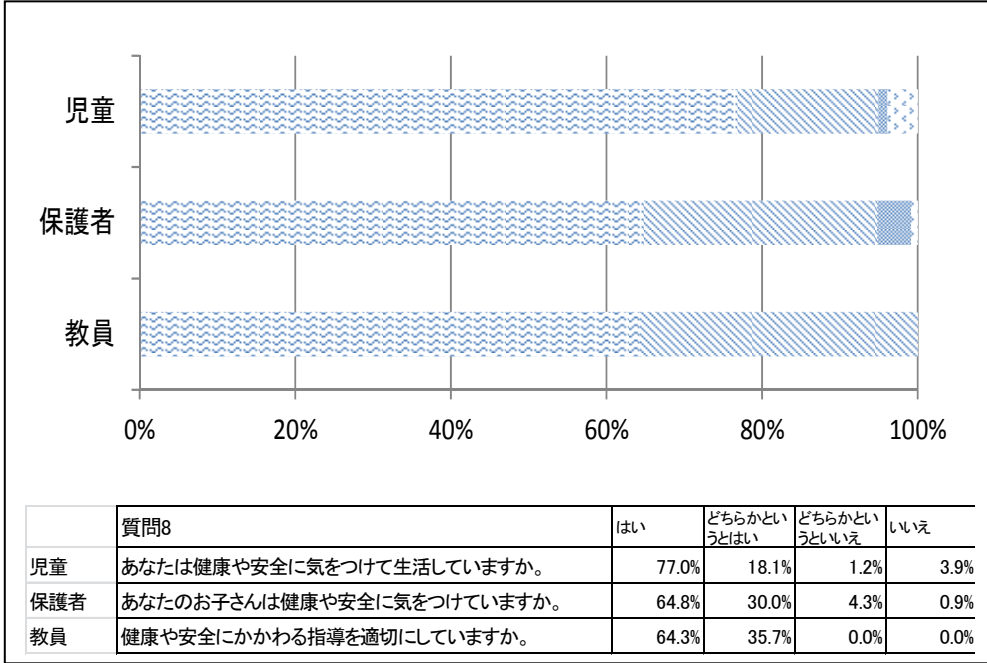
昨年までなかった質問項目である。「そうじをがんばる子」を育てたい子どもたちの姿として取組を始めて 4 年目になる。児童は概ね「掃除時間には掃除している」と回答している。一方で、整理整頓できていると判断している保護者は 20%にも届かず、親に言われてようやく片づけるといふ子どもの姿が想像できる。また、教員も概ね掃除の指導をきちんと行えているという結果であるが、様々な事情が考えられるものの、「はい」の回答率が上がるような工夫や改善が必要である。



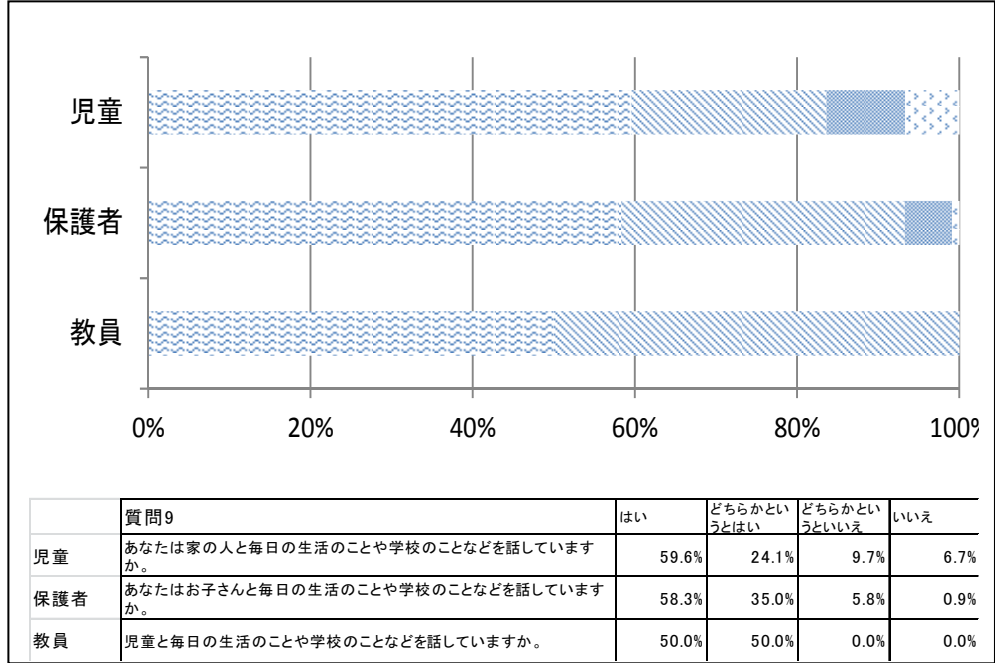
朝食を食べていない子どもが減少している。朝スッキリウィークの取組や学校だより、健康だより等による啓発が効果を見せ始めている。また、どちらかというといえ、いいえの保護者と児童の割合がほぼ一致することから、朝食抜きになることがよくある家庭がわずかながらあるとみてよいのではないだろうか。睡眠時間と朝食を食べる時間をしっかり確保することは、成長期の子どもにとって大変重要なことである。不規則な生活や、食事は常態化すると子どもの将来に大きな影響を与える可能性を考えなければならない。



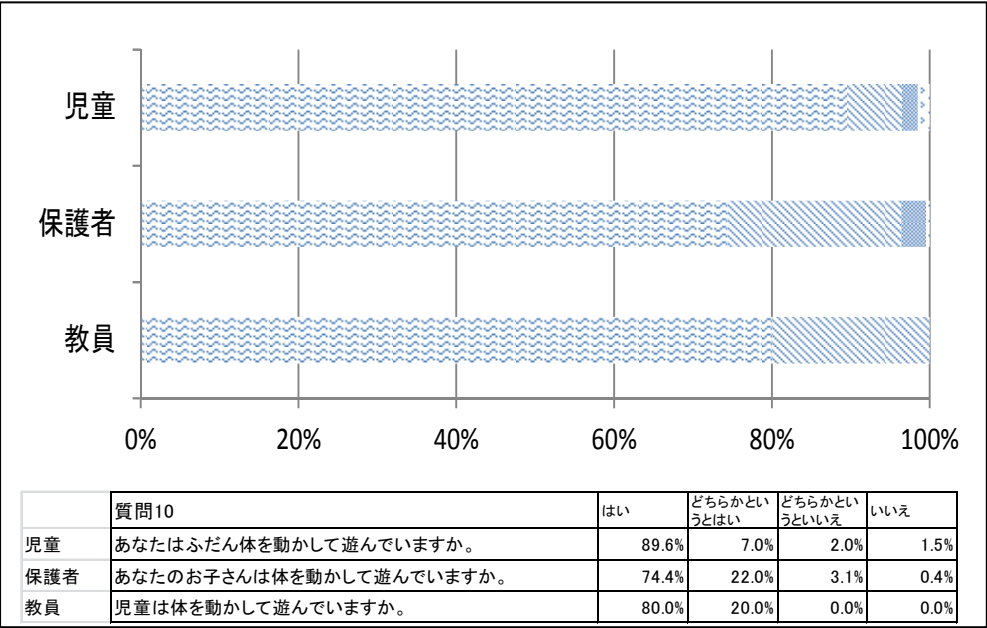
「はい」の回答が昨年比で児童・保護者ともに 10 ポイント以上増えており、教員の質問に対する「はい」の回答は 20 ポイント以上の増加であった。また、「いいえ」の回答も減少しており本校の児童の傾向としては家庭生活に満足していると考えられる。しかし、わずかではあるが保護者と児童の「いいえ」の割合に開きがあるところに着目すると、保護者の気付かないところで不満を抱えている児童がいることになる。教員はそういった児童に気づき適切な対応をする必要がある。



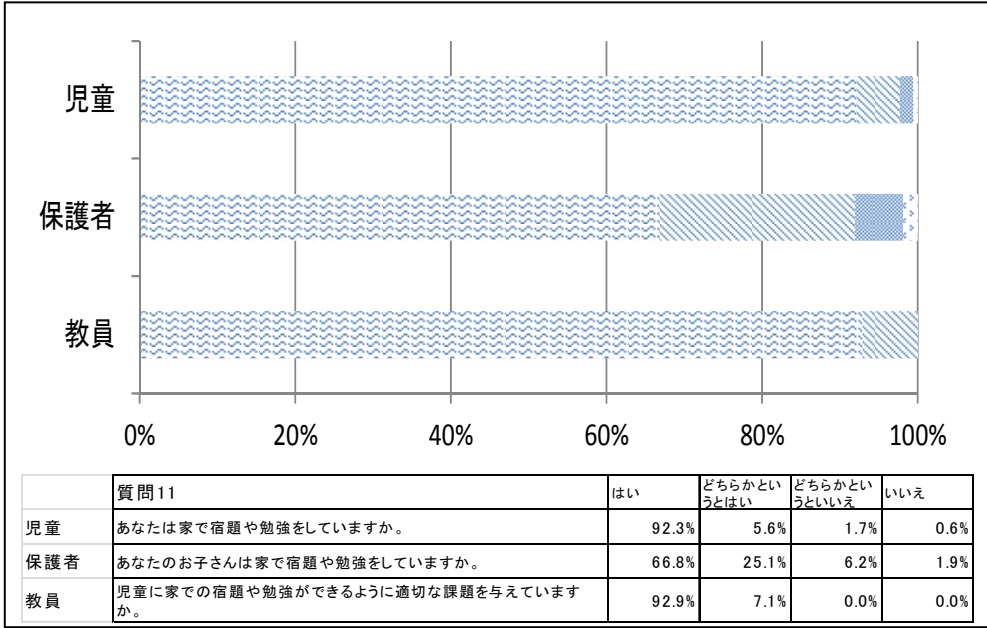
健康教育の研究に取り組んで 3 年になることをふまえて、今年度から新たに加えた質問である。まず、適切な指導ができていると回答した教員が 60%しかいない点については危機感をもちなければならない。日々の教育活動の中で必ず含まれるべき指導事項であるので、教員の意識改革を行う必要がある。一方、児童の「いいえ」の回答が 3.9%ある点にも着目したい。日頃の子どもの様子から変化を敏感に感じ取り、自分自身を大切にすることの意味を指導しなければならない。



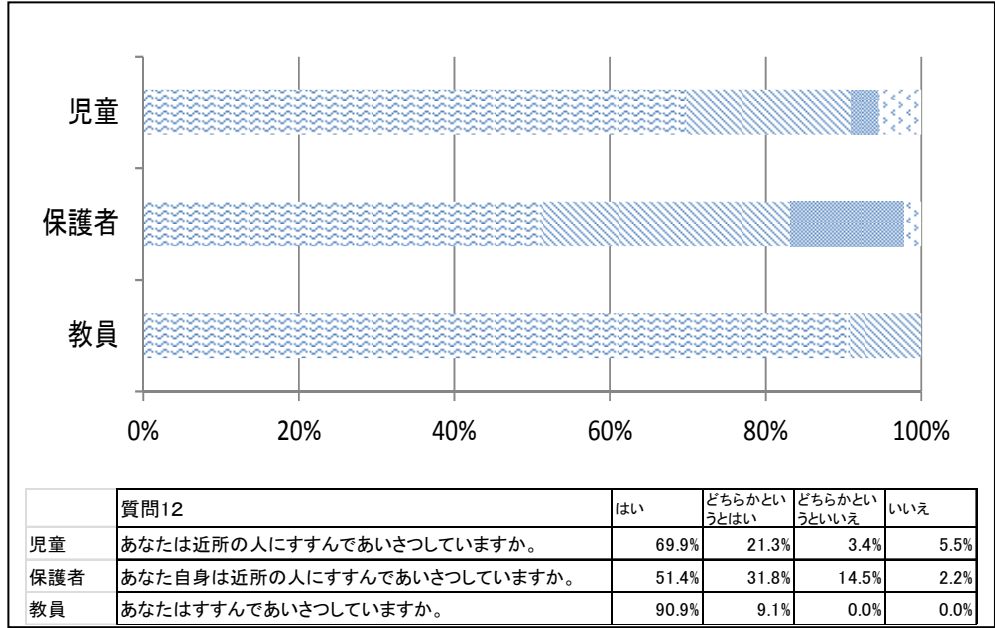
この項目もほぼ毎回大きく変化のない回答となっている。また、保護者と児童の回答がほぼ一致するところと、大きく離れているところも大変よく似ている。学校のことに限らず、親子のコミュニケーションは子どもの良好な成長に欠かせない要素であり、子どもの実態を把握するうえでも大変有効な方法である。この項目においても、教員の回答が気になる。子どもとのたわいもない会話から、様々な変化を感じることが問題行動の抑止につながることを忘れてはいけない。



今年度より、毎週水曜日に「ロング昼休み」として 35 分間の昼休みを設定している。その効果が表れているようで、「はい」の回答で児童は昨年比 22 ポイント、教員は 35 ポイントの増加である。一方保護者は 7 ポイントしか伸びていないが、「いいえ」「どちらかというといいえ」を合わせて 3.5%しか回答がなかったことを考慮すると、放課後や休日等子どもが体を動かして遊ぶ時間が増えたとみてよいだろう。ゲーム機に向かってじっとしている時間は少なめに、体をしっかり動かして遊ぶ時間はたっぷりととる一方で地域での遊びでは十分安全に気をつけるよう指導を忘れてはいけない。

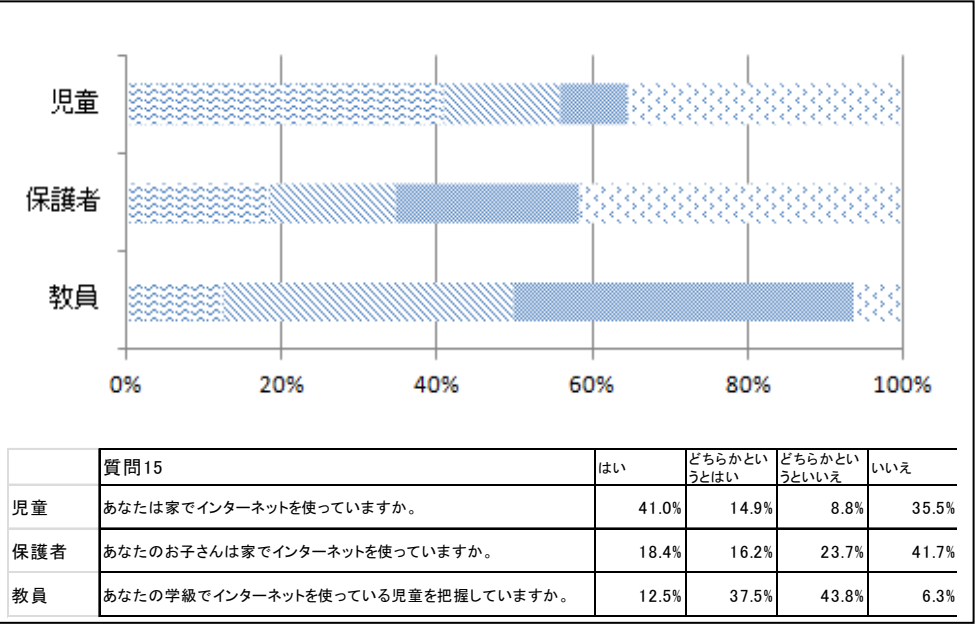
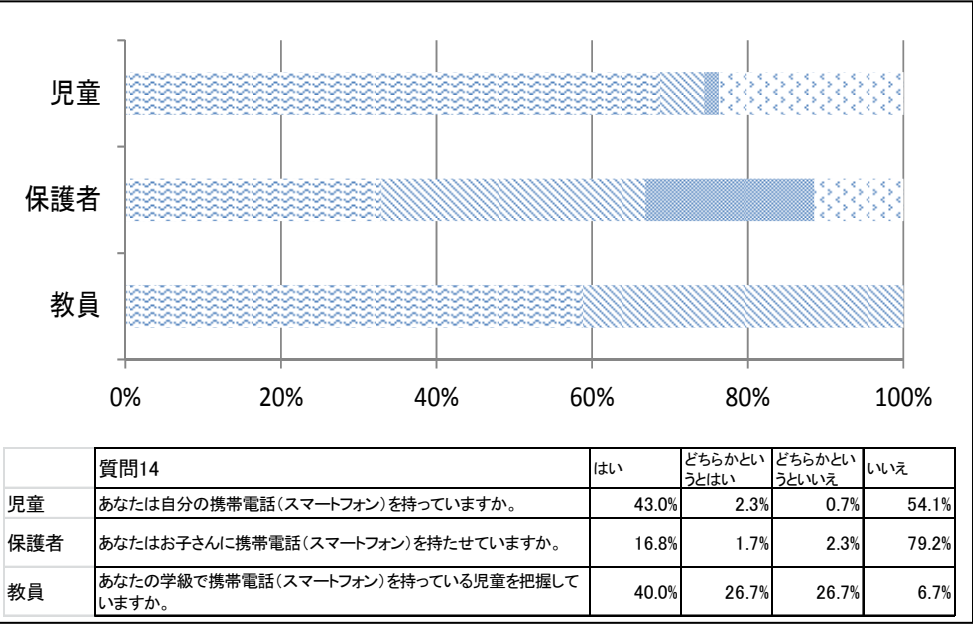
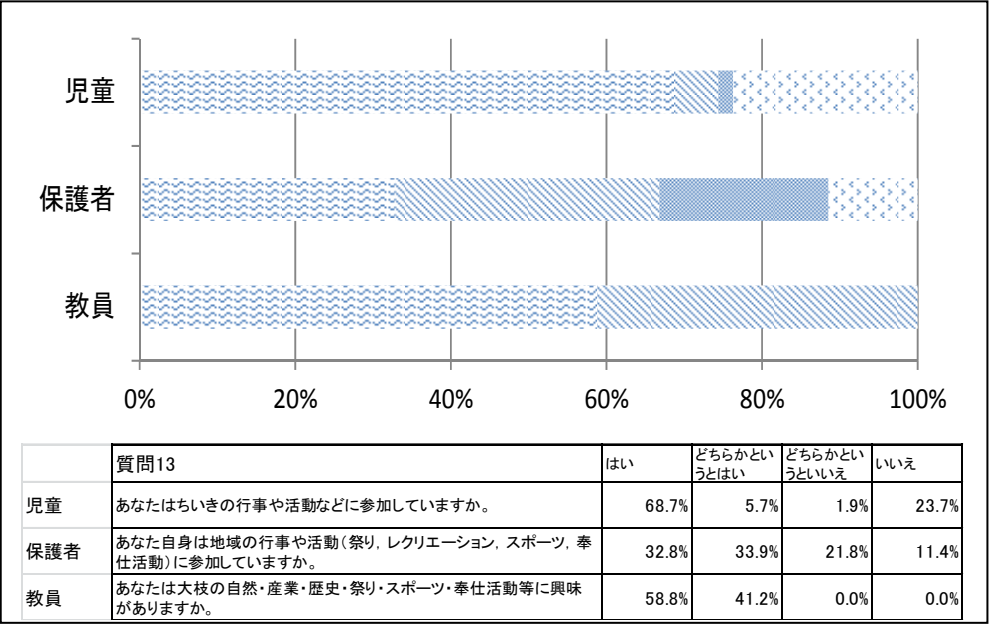


家庭学習に関する質問である。教員の 90%以上が適切な量の課題を出しており、それに対してほぼ同率の児童が「はい」と回答している。児童の「はい」の回答は昨年比 18 ポイント増加。教員は 19 ポイントの増加であった。担任が毎日取り組める適切な量の宿題等を出すことで子どもたちもきちんと取り組むことがわかる。保護者の回答割合を見ても家庭学習しているかどうかをきちんと確認されていることがわかるので、宿題等に取り組む習慣が身につき始めているようだ。次は出されたものだけでなく自主的に取り組む学習へ段階をあげることを考えなければならない。



平成 25 年度以降、児童、保護者ともに「はい」と答えている割合が減少傾向で、昨年度の後期の回答は 40%台にまで落ち込んでいた。しかし今回は 3 者ともが前回は上回る結果になった。特に児童の回答は前年比 10 ポイントの上昇であった。地域の方々のご協力もあり、啓発ポスターを校区内の各所へ掲示したり、保護者のみなさんに登校時や下校時に子どもたちへ声かけをしていただいたりしたことがこの結果につながったのではないかと考える。これが、子どもたちの常態になるように学校としても引き続き取り組んでいかなければならない。





地域の行事が多くはないが、各種団体が主催する行事がいくつかある。ただ、募集枠や参加数が限られており、校区全体で開催される大枝夏祭りに参加しなければ、地域行事に参加することがほとんどないという結果になってしまう。また、教員も今年度は複数の入れ代わりがあったため、「はい」の回答が昨年よりも低くなっている。子どもたちは、地域の歴史や特産など総合学習で学んでいる。教員も大枝の歴史や特産などに関心をもって、知識を深めることが子どもたちの地域を愛する心の育成につながると考える。

回答の仕方に課題があり、正確な回答が得られなかったため、今回から「はい」「いいえ」での回答とした。保護者は持たせていると答えている割合が20%に満たないにもかかわらず、児童は45%が持っていると答えている。この開きの原因はどこにあるのかを詳細に調べるよりも、持たせているのであれば安全に利用することができるように指導することが重要だと考える。次の項目でもあるように、ネット利用の割合は少しずつ増えてきている。通信機器の安全な使い方を学習することが今後ますます重要になると考える。

インターネットを使っている児童が増えている。あわせて、教員も学級児童のうちインターネットを使っている児童の把握が進みつつあるようだ。スマートフォン、ゲーム機等様々な端末からインターネットの世界につながることができることと、ネット社会と切り離しての生活が成り立たない現代社会においては、学校でのモラル指導と家庭でのペアレンタルコントロールの両方でネットを有効活用することができるようにしなければならない。

学校運営協議会でのご意見

- 学習内容の理解について、十分できていない児童がいることが気になる。
- 朝食を食べている児童がほとんどだが、食べていない児童へのケアを考えておくべき。食事抜きでは学校生活に悪影響が出るだろう。
- 安全に気をつけるのは当然だが、ただ気をつけるのではなく、より考えて安全を確保するようにしたい。  
例えば、信号を待つ時に、車道から離れる等。
- 家庭学習をしっかりとやっていると思う。
- あいさつをしっかりとしている子どもが増えたのは大変よいことだ。6年生の描いてくれたポスターの効果があったのだと思う。
- 知らない人でもしっかりと挨拶することで防犯につながるのではないか。
- あいさつすることが自然にできるように、しっかりと定着させたい。
- いくつかの団体が地域行事を行っているがほとんど夏休み中のことなのでアンケートに反映されにくいのではないか。
- 5月には3地区の神社の祭りがある。なるべくたくさん子どもたちが参加できるようにしたい。
- 携帯の所持について、保護者と子どもの回答に大きな開きがあるのはなぜか。小学生が親に知られずに携帯を手に入れることができるのか。
- ネットの利用は、親がよく使っていれば子どもも使うようになるのではないか。
- 学校ホームページの記事を見て、保護者が声を掛けてくれたことがある。保護者はまめにホームページを見てくれている。
- 遅刻・不登校気味の子どもはいないか。もし気になる子どもがいるなら地域としてできることをしたい。
- 保護者が仕事で先に出て、子どもが後から家を出るような場合に不登校が生まれやすい。近所のものが登校を促す声かけができればよいが。
- 子どもも誰かが気にかけてくれていると思えることが大切なのではないか。

地域のみなさんと共に大枝の子たちを育てていることが実感できるご意見をいただきました。あいさつ運動のポスターは、学区内のたくさんの場所に掲示をいただいています。また、社会福祉協議会、少年補導等各団体のイベントも後期に多数開催されます。大枝の子どもたちが多くのみなさんの支えのもとしっかりと育っていくように、学校教育目標をしっかりと見据え、後期の指導に教職員一丸となって取り組みます。保護者、地域の皆様のより一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。委員の皆様ありがとうございました。